

# 反動の嵐に抗して！

2011年  
2月7日  
No.9

JR 東海労働組合  
台車検査車両所分会  
発行者 西村泰弘  
編集 教宣部

職場要求シリーズその2

## 要員配置に問題あり！

前号に引き続き職場諸要求の検証を行っていきます。

台検庫検査ラインの移設に伴う輪軸等の移動距離が長くなり危険が増しています。台検庫は人の往来やフォークリフトなどの搬送装置の往来も多く、輪軸の移動はなるべく少ないに越したことはありません。検査ライン移設の過渡期である通常作業とは異なる時こそ十分な要員を確保し安全にもっとも気を払うべきではないでしょうか？会社の「現行通りとする」というそっけない回答で、本当に安全が確保されるのでしょうか？

いくら安全綱領の唱和を行っても限られた時間の中で社員の注意力のみに頼っていても限界があるのではないのでしょうか？イレギュラーな作業にはそれなりの要員を確保し安全を担保するのが会社の責任だと思います。

## 動バラ限度の変更で余裕なし！！

車輪削正後の動バランス測定の許容範囲が 10 kgから 7 kgに変更され車輪旋盤の再削正が頻繁に行われるようになりました。このため旋盤作業だけでなく動バランス測定を行う出検作業も全く余裕がなくなり、副班長や回転試験の応援を得ないと作業ができない状況もしばしばあります。特に車輪旋盤作業はキリコを直接接触するため大変危険な作業であり、この間も労災や事故が発生しています。もし現状のまま余裕のない作業が続けば大きな事故が起きないとも限りません。もし事故が起きればその責は、この現状を放置しているすべて会社にあると言えます。一刻も早く余裕をもった要員を確保すべきではないでしょうか。

## 作業ダイヤは必要なし？

輪軸組立の姿置きに対して、会社は「特にダイヤ上で示す必要はない」と言っています。そもそも、もともとなかった作業を無理やりコロ検室の作業に付加し、手の空いた時間で行うなど、なし崩し的に行われています。したがって、ダイヤを示す必要が無いのではなくダイヤを示せないというのが実情です。さらにバネ作業の姿置きも加えられ、業務量は増えるばかりです。

自称責任組合のユニオンはこのような現状をどのように見ているのでしょうか？責任組合？としての責任を発揮してもらいたいものです。